

グローバリゼーションと日本経済—ヒト、モノ、カネ、社会共通資本—

矢野 誠

(京都大学・経済研究所・教授)

【研究の概要等】

現在、著しい速度で進行するグローバリゼーションについては、積極的に支持する論者もいれば、不公正・不平等をもたらすものとして排斥する論者も存在する。本研究プロジェクトでは、グローバリゼーションが経済活動や経済厚生に与える影響について、特に、理論研究とミクロ・データに基づいた実証研究・カリブレーション分析を中核に据えて、総合的な分析を行う。研究では、「グローバリゼーションの世界経済の発展と安定化に対する影響（景気変動の国際的連関と経済成長に及ぼす影響）」と「グローバリゼーションが所得分配に与える影響」という二点が特に注目される。

第一点目に関しては、Nishimura and Yano (1993) が景気循環の国際的連関に関する基礎的な分析を行っている。近年、外部性の動学的効果について研究が進んだが、景気循環の国際連動性への影響は検討されていない。第一の中心テーマはそれを明らかにすることである。

第二点目の中心テーマは、景気変動リスクの負担能力の所得階層間での格差へのグローバリゼーションの影響である。とくに、国際金融市場の機能に着目し、市場の安定性の確保に向けて、望ましい国際機関や国際協定のあり方について検討する。

【当該研究から期待される成果】

メンバーは、これまでも、数多くの論文を発表してきており、本プロジェクトでも多数の論文が国際的な学術誌に発表されると期待される。また、国際学会やシンポジウムの主催を通じて、動学的経済分析に関する研究成果発信の国際的な拠点や国際的な研究ネットワークが形成されると期待される。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ “Interlinkage in the Endogenous Real Business Cycles of International Economies,” *Economic Theory* 3 (1993), 151-168 (with K. Nishimura).
- ・ “Endogenous Real Business Cycles and International Specialization,” *Theory, Policy and Dynamics in International Trade: In Honor of Ronald W. Jones*, W. Ethier, E. Helpman, and P. Neary, eds., Cambridge University Press, 1993, 213-236 (with K. Nishimura).

【研究期間】 平成19年度－23年度

【研究経費】 12,000,000 円
(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】 な し